



2009年02月10日
独立行政法人海洋研究開発機構

研究船を利用した研究成果発表会「Blue Earth' 09」開催について

独立行政法人海洋研究開発機構(理事長 加藤康宏)は、機構が保有する海洋研究船(「みらい」「なつしま」「かいよう」「よこすか」「かいいい)及び有人潜水調査船「しんかい6500」等の深海調査システムを活用して得られた研究の成果発表を目的として「Blue Earth' 09」を開催いたします。

「Blue Earth' 09」は、研究分野の枠を越えた情報交換の場を提供するとともに、一般の方にも分かりやすく研究成果を伝え、海洋地球科学技術への理解を深めて頂くことを目的としております。

また、これら研究成果発表のほかに特別講演として、「真核生命誕生のしくみを解明し温暖化・砂漠化など気候変動に挑戦」ー極限生物のゲノム・マス科学でーと題して、黒岩常祥氏(立教大学理学研究科・極限生命情報研究センター センター長、特任教授)による講演も予定しております。

記

- 1.開催日時: 平成21年3月12日(木)9:20~18:10(9:00開場)
平成21年3月13日(金)9:30~17:30(9:00開場)
- 2.開催場所: 立教大学 池袋キャンパス7号館([別紙1参照](#))
- 3.入場料: 無料(事前登録不要)
- 4.主催: 独立行政法人海洋研究開発機構
- 5.共催: 立教大学
- 6.プログラム: [別紙2参照](#)
- 7.特別講演: [別紙3参照](#)
- 8.ホームページ: http://www.jamstec.go.jp/jamstec-j/maritec/rvod/blue_earth/2009/

- 池袋駅西口より徒歩7分
- 東京メトロ有楽町線要町駅より徒歩6分



Blue Earth'09 プログラム

別紙2

第1日目：平成21年3月12日（木）

会場：立教大学池袋キャンパス

主催：立教大学 海洋研究開発機構 共催：立教大学

共通開催（A会場7102教室にて開催、A会場には同時開催）

海洋研究推進委員会委員長挨拶（09:20-09:30）

開場式 会場：7102教室（17:10-18:00）

「真核生命誕生のしくみを解明し温暖化・砂漠化など気候変動に挑戦—極限生物のゲノム・マス科学で—」

〇黒岩 常祥（立教大学特任教授 立教大学極限生命情報研究センター長）

閉場式挨拶（18:00-18:10）

懇親会 会場：立教大学食堂（18:30～）【ポスターセッション含む】

開口頭発表

A会場：7101教室

01：生物地球化学（09:30-09:50）

議長：本多 俊生（海洋研究開発機構）

BE09-01（09:30-09:50）

北西極北太平洋においてアンモニア濃度の増加をもたらす生物生産の変動について

〇松本 和康（海洋研究開発機構）他

BE09-02（09:50-10:10）

高緯北極海における海水-海洋微藻とそのクロロフィル分布への影響

〇津嶋 浩平（東京海洋大学）他

BE09-03（10:10-10:30）

夏季の北太平洋夏季帯水および陸域高気圧帯水における懸濁粒子中の

生物起源・地殻起源元素の挙動

〇藤本 洋子（東京大学）他

BE09-04（10:30-10:50）

2007年夏季北極北太平洋の大気と海水DMS分布と大気DMSの酸化条件

〇水尾 一平（名古屋大学）他

02：南極トランプ・原野（10:50-11:00）

議長：小林 隆明（筑波大学）

BE09-05（10:55-11:15）

南極トランプ沿い巨大地殻の新構造モデル

〇小林 隆明（筑波大学）

BE09-06（11:15-11:35）

「かいたい」MCSIによる南極沖フィリピン海プレート沈み込みイメージ

〇三浦 誠一（海洋研究開発機構）他

BE09-07（11:35-11:55）

層析法探査データを用いた地殻深部構造のマッピング

- 東海海における探査データへの適用 -

〇藤江 剛（海洋研究開発機構）他

03：ポスターセッション 会場：7202, 7203教室（18:00-18:00）

03：伊東 小佳郎・マリアナ I（14:30-15:30）

議長：小平 勇一（海洋研究開発機構）

BE09-08（14:30-14:50）

大陸棚調査により得られた新しい知見と1000島嶼地殻深部探査計画

〇小平 勇一（海洋研究開発機構）他

BE09-09（14:50-15:10）

層析法地殻探査データからみた伊豆・小笠原火山フロント下地殻

— マントル遷移層の特徴 —

〇佐藤 佳（海洋研究開発機構）他

BE09-10（15:10-15:30）

P波構造とS波構造からわかる北伊豆小笠原島嶼のリフティングと

地殻薄化

〇高橋 成実（海洋研究開発機構）他

休場（15:30-15:40）

04：南極・南緯（15:40-17:00）

議長：松本 良（東京大学）

BE09-11（15:40-16:00）

上陸沖、海嶺海淵のガスハイドレート・システム

〇松本 良（東京大学）他

BE09-12（16:00-16:20）

上陸沖メタンハイドレート貯留域におけるボックマークとマウンドの

地形的特徴

〇弘松 峰男（千葉大学）他

BE09-13（16:20-16:40）

日本海東縁、海嶺海淵ガスハイドレート分布域のシングルチャンネル

サイスミック解釈

〇Antonio Fernando Manazes Freira（東京大学）他

BE09-14（16:40-17:00）

海志目視観察から明らかになった石垣島東方沖海嶺海淵断層の発達・伝播

〇松本 剛（琉球大学）他

休場（17:00-17:10）

B会場：7102教室

05：海洋生態系（09:30-11:00）

議長：黒岩 常祥（海洋研究開発機構）

BE09-15（09:30-09:50）

海洋生態系における多様性、共生および進化-海洋生態系2003-2008-

〇藤原 隆弘（海洋研究開発機構）他

BE09-16（09:50-10:10）

海洋生態系2003-2008—海洋生物群集の遷移と深海域における役割—

〇山本 智子（鹿児島大学）他

BE09-17（10:10-10:30）

海洋生態系2003-2008—海洋環境が育む多様な共生システム—

〇阿部 勝（海洋研究開発機構）他

BE09-18（10:30-10:50）

海底下に広がる細菌の集まりに誘導する化学環境の遷移とそれに依存した生物

の地球化学的特徴：野間沖海洋生態系2003-2008

〇山中 寿樹（岡山大学）他

BE09-19（10:50-11:10）

海洋生態系2003-2008—海洋環境における骨質動物ゲイコワナメジウオの

成長と生物学的特徴

〇丹野 由希子（東京大学）他

06：海洋合衆生態系（11:15-11:50）

議長：黒岩 常祥（東京大学）

BE09-20（11:15-11:35）

シチヨウシカイヒバリガイの形態および行動特性

- 深海域二枚貝類と比較して -

〇伊藤 香（石巻専修大学）他

BE09-21（11:35-11:55）

サブナリシャジクはヘイトウシカイヒバリガイを獲る

〇藤倉 克則（海洋研究開発機構）

休場（12:00-12:00）

07：海洋生態系（14:30-16:00）

議長：黒岩 常祥（海洋研究開発機構）

BE09-22（14:30-14:50）

北マリアナ熱水噴出域に生息する腹足類オガサワラマンジの環境適応戦略

〇中野 祐（東京大学）他

BE09-23（14:50-15:10）

埋没目クラゲノミ類目の群集構造に影響する環境要因の検討

〇森 真由貴（筑波大学）他

BE09-24（15:10-15:30）

JRST150の調査探査システムが撮影した顕微鏡

〇藤寺 恒己（国立科学博物館）他

休場（15:30-15:40）

08：動物生態系・生態（15:40-17:00）

議長：黒岩 常祥（北見大学）

BE09-25（15:40-16:00）

飼育によって得られた熱水噴出域産生物の発生

〇三宅 祐希（北見大学）他

BE09-26（16:00-16:20）

マヌス海熱水噴出域に生息する腹足類ヨモツヘイガイの成長と繁殖生態

〇渡部 裕典（海洋研究開発機構）他

BE09-27（16:20-16:40）

深海域ビクニシロ類の光受容器官—網膜と松果体の組織学的研究—

〇渡部 裕典（東京女子大学）他

BE09-28（16:40-17:00）

微生物への適応によるヘイトウシカイヒバリガイタウリンランス

ポーター遺伝子の発現調節

〇小島 智子（東京大学）他

休場（17:00-17:10）

[プログラム\[PDF: 2.47MB\]](#)

別紙3

< 特別講演についてのご案内 >

演題：真核生命誕生のしくみを解明し温暖化・砂漠化など気候変動に挑戦—極限生物のゲノム・マス科学で—

（講演者紹介）

黒岩 常祥 [くろいわ つねよし]

（立教大学理学研究科・極限生命情報研究センター センター長、特任教授）

1971年東京大学大学院理学系研究科植物学専攻博士課程修了。同年東京都立アイトーパ総合研究所入所後、岡山大学、岡崎国立共同研究機構基礎生物学研究所、東京大学勤務等を経て、2003年に立教大学教授となり、2007年より立教大学大学院特任教授となる。生物（細胞）の誕生、生存、未来の鍵を握る細胞内のエネルギー変換器官、「ミトコンドリアと葉緑体」の分裂増殖と遺伝のしくみの解明、及びこれらの研究推進の基盤となる真核生物のゲノムを世界ではじ

めて100%解読したことなどにより、米国植物科学会賞(バーズ賞)、東レ科学技術賞、紫綬褒章などを受賞する。

お問い合わせ先:

(「Blue Earth'09」について)

海洋工学センター 研究船運航部

計画推進グループリーダー 内田 徹夫

(報道担当)

経営企画室 報道室長

村田 範之